

あそぶ・まなぶ・語る

周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第43号
2023年8月

開催中

周防大島でさがす

万葉集の植物たち

— 吉村宏写真展 —

生涯の八幡学習

いは(わ)ばし たるみ
石走る 垂水の上の さ蕨の わらび
萌え出づる春に なりにけるかも —

『万葉集』に収められた志貴皇子(しきのみこ)の歌です。古典の授業で勉強した、という方も多いのではないのでしょうか。

『万葉集』は現存する日本最古の歌集で、ほぼ7世紀から8世紀中ごろまでの歌を集めていると考えられており、20巻に四千五百余りの歌が収録されています。これらの歌を詠んだのは歴代の天皇や皇族、貴族といった人々から役人たち、警備のために故郷を遠く離れて任地へ赴く兵士や民衆といった様々な人々でした。収録された和歌は男性のものも女性のものもあり、その半数以上は「よみびと知らず」と記される誰が詠んだのかもわからない歌です。『万葉集』には喜びや悲しみ、恋心やちよつとした驚きに心弾ませたり、ムツとしたりといった当時の人々の



【写真＝日前の浜に咲くハマヒルガオ】



【写真＝地家室の梅】

心の動きが収められているといえるでしょう。

そんな『万葉集』には百五十種余りの植物が登場し、その中には周防大島で見ることができ植物も多くあります。冒頭で紹介した「蕨」もその一つで、山菜採りの代表的な植物でした。

また、「わが園に 梅の花散る

ひさかたの 天(あめ)より雪の 流れ来るかも」という大伴旅人(おのおものたびと)の歌(巻五・八二二)は現在でもよく目にする梅の花が登場します。梅の白い小さな花びらが舞い散る様子を雪が流れてきたのかと思った、という驚きを詠んだ凛とした寒さの中に馥郁(ふくいく)とした香りまでもただよってきそうな美しい歌です。

「そうは言っても、古文は敷居が高くてね…学生時代もそんなに得意じゃなかったし…」という方。確かに、身近な植物を読みこんでいるとはいえ格調高くつつきにくい感じがするかもしれま

せん。では、大伴旅人の梅の歌を周防大島の言葉に訳してみよう。

うちの庭に梅の花が散っちゃってね
雪が降ったんかと思うてたまげたんよ

こうすると、歌を詠み交わした万葉人がSNSを使っているような親しみのあるものに感じられませんか。今回の学習のむらの企画展では、周防大島町日前の写真家吉村宏氏が万葉集に登場する植物を周防大島で見つけて撮影された写真と周防大島語訳の和歌で紹介します。現在でも見られる草花、かつてはあったけれどいつの間にか見かけなくなった植物など写真を見ながら周防大島の自然を感じてみませんか。

(古賀瑞枝)

たかまど

高円の 野辺の容花面影に

かおばな

見えつつ妹は 忘れかねつも

いも

— 大伴家持『万葉集』巻八・一六三〇 —

高円の野に咲く容花を見ると

あなたの面影に見えてせつないんよ

— 周防大島語訳 —

※「容花」はヒルガオと考えられる

記念植樹と 庭の樹木あれこれ

今年は、ハワイ・カウアイ島と大島郡の姉妹島提携60周年を迎えます。

移民の歴史を背景としたこの絆は、年を増すごとに密になり、そして大きくなってきました。この交流の節目にお互いの首長が訪問し合う中で、記念の植樹を行う場合があります。

大島郡の合併を翌日にひかえた平成16年(2004)9月30日に、日本ハワイ移民資料館においても当時の大島町長とカウアイ郡長により「桜」と「フェニックス」を資料館

敷地の一角に植えまし
た。今では、ボールにた
なびく日の丸、ハワイ州
旗とともに、当館の目印
になるくらいまで大きく
育ちました。

イ
島
本
民
日
移



ほか、当館(旧福元家)の中庭には、大きな「サルスベリ」の木があります。昭和3年(1928)に建てられたころ植えられたようで、大きな空洞がある幹には長い時の経過を感じます。また、その素晴らしい生命力から夏には可愛いピンクの花を沢山咲かせます。お客さまから「こんな大きなサルスベリを見たのは初めてです」と感嘆の声を聞くこともあります。

前庭には、二階を超える高さの大きな「ダイオウマツ」などの木があります。「ダイオウマツは、お正月のお飾りや生け花にも使われるのよ」とお客さまから教えていただいたこともあり。また時々、大きな松ぼっくりを落とすことで話題となります。

建物の周りだけでなく周辺の樹木等にも目を向けると、さらに興味は尽きないものがあります。私たちの

庭や散歩コースにある樹木等にそれぞれの時(歴史)を感じ、ひと味違った風景が見えてきそうに思います。

(井倉清水)

原田裕規さんの 個展を終えて



【写真＝展示室に設営された映像モニター、撮影：松見拓也】

令和4年(2022)12月、アーティストの原田裕規さんと共に、日本ハワイ移民資料館を訪れました。ハワイ移民をテーマとした原田さんの新作公開の場を、移民を多く出した歴史を持つ周防大島で探していた最中のことでした。

大正時代の建築も含めて、私たちの目に資料館は魅力的に映りました。「ぜひここで個展を開催したい!」と意気込み、企画書を持て館長さんと交渉、翌年1月には学会の開催が本決まりとなりました。そこからの5ヶ月間、原田さんは制作に邁進され、周防大島とハワイの生活文化や物語について、モニターに映る人物らが朗読・復唱する映像作品を完成させました。朗読にはCGと字幕を用い、方言やピジン英語を取り入れているのも特徴の一つです。筆者は企画者として、連絡調整やチラシ・作品解説作りに精を出しました。(6月20日〜7月9日開催) 実のところ、心配だったのが集客でした。しかし、日本ハワイ移民資料館初の現代アート展ということもあり、本展の情報は多くのウェブメディアや新聞に取り上げられました。結果として地元の方は勿論、全国各地から観客が訪れ、資料館は通常よりも多くの入館者数を記録したといえます。初訪問の方も多く、大島の移民の歴史をあわせて知っていただく機会となりました。

(高知県立美術館主任学芸員塚本麻莉)



「心身ともに健康なカラダ」を目指して「スポーツのある生活」を始めませんか？

総合体育館アリーナ・トレーニングルームでは、天候に左右されず運動ができます。友達、ご家族、個人とどなたでもご利用できます。運動を始めて、心も体もスッキリしませんか？バドミントン、バレーボール、卓球等の道具を無料で貸し出しています。皆様のご利用お待ちしております！

また、当施設ではお客様の心身の健康づくりのお役に立てるよう、運動推進・健康増進の案内とお手伝いを日々行っています。当施設で開催している教室なども紹介しますので、お気軽にお問合せください。

◆卓球クラブ

卓球は、経験者の方はもちろん、初心者の方でも気軽に始めることのできるスポーツです。日々の生活をより充実させるためにはじめてみませんか？ラケットの貸出も無料です。経験者の方はもちろん、初心者の方も大歓迎です。

【練習時間】 火曜日午後7時半～午後8時半 金曜日午後1時半～午後3時半

【参加費】 月会費100円 備品代年間300円

◆エアロビクス

音楽に合わせた、リズムカルな有酸素運動は爽快感を味わえます♪

エアロビクスは、有酸素性運動の代表的な運動です。低～中等度の全身運動を長時間（20分以上）行うもので、安全性が高く、年齢・性別に関係なく万人に適した運動です。月に一度身体を整えるコンディショニングの時間もあります。

【練習時間】 毎週水曜日 午後7時半～午後8時半

【参加費】 月3000円 体験も受け付けております！

◆トレーニングルーム

当施設には各種トレーニングに対応できるマシンを設置した「トレーニングルーム」があります。健康維持向上、シェイプアップ、筋力アップなど様々なリクエストに使える使いやすいトレーニング器具を揃えています。なお、初めての方は初回講習会の受講が必要となっています。見学は自由ですのでお気軽にお立ち寄りください。皆様のご利用をお待ちしています。

【利用料金】 1回220円

1 時間ごとの料金表

	9～17時	17～21時	延長料
フロア 1/3 利用	¥ 330	¥ 390	¥ 490
フロア 1/2 利用	¥ 490	¥ 590	¥ 730
フロア 2/3 利用	¥ 660	¥ 790	¥ 990
フロア全面利用	¥ 990	¥ 1,180	¥ 1,480

※町外の方のご利用は倍額になります

町所有民具の 整理事業



町では所有民具の整理事業を進めています。町内の保存施設はいずれも建物の老朽化や保存環境の悪化といった問題があり、将来的な活用のため整理しています。本年度は小泊地区「瀬戸内民俗館とうわ」の民具整理を進めています。

民具の収集は宮本常一が力を入れた事業の一つでもあり、収集を通してふるさとを見直すことを目的としていました。民具をみることは地域にあった歴史や暮らしを知ることにもつながり、都会に比べて見劣りするのではない文化があったと、その当時の人々に誇りを持たせる意図があったようです。

このようにして集められた民具の活用と継承がうまくなされるよう事業を進めてまいります。（徳毛敦洋）

一枚の古写真



これは宮本常一が昭和43年（1968）3月に撮影した沖家室島州崎の写真です。まず目を引くのは、集落における家数の多さです。沖家室島は江戸時代からタイの一本釣りによって発展したところで、明治20年（1887）頃には700戸を超え、「家室千軒」とうたわれました。島に店屋は40軒以上あり、漁師が多かったので、造船所も州崎に3軒、本浦に2軒ありました。家屋敷の面積はどれも15〜20坪と狭く、県内でも下関に次いで地価が高かったといわれています。

港の中ほどには町営渡船「せと丸」と思しき船がとまっています。その先にある平屋の白い建物は渡船の待合所です。「せと丸」は昭和58年（1983）3月に沖家室大橋が架かるまで、州崎と対岸の佐連を結んでいました。当時は沖家室島に中学校があり、店屋も多かったため、佐連から渡ってくる人も少なくありませんでした。ちなみに、現在この建

物はスクールバス白木線の待合所として転用されています。また写真をよく見ると、この時点では待合所が海のすぐそばに立地していたのが分かります。この辺りはもと砂浜だったところを昭和初期に埋め立てて港をつくり、さらに沖家室大橋の架橋



に際し、待合室と港の間にバスが通れるよう、海岸道路をつけました。港の右側には地元漁船がたぐさんととまっています。戦後州崎にとまっている船を数えてみると100艘近くあり、そのうち動力船は1割にも満たなかったそうです。

集落背後の斜面は段畑になっており、尾根上にはミネマツと呼ばれる大きな松の木が並んで見えます。ミネマツは南からの強風を防ぐために、17世紀初めに島に住み始めた人が植えたものといわれています。これは燃料の供給源としても重要で、日頃から松葉を掻きに行ったので林床に障害物はなく、かつては尾根伝いに島の端から端まで歩けました。しかしプロパンガスが普及してから尾根は荒れ始めました。さらに昭和40年代後半からミネマツはマツクイムシに被害され、ほとんど伐つてしまいました。

段畑ではもっぱらムギとサツマイモを作り、主食として食べていました。春の麦刈りと秋の芋掘りは特に忙しく、子どもも学校を休んで手伝いました。戦時中、本浦にあった沖家室小学校の運動場は芋畑に転換され、夏休みも水やりなどで忙しかったそうです。食糧増産のためでした。沖家室島は今年の3月で架橋40周年をむかえました。これには離島振興法の産みの親である宮本常一のはた



【写真＝沖家室大橋と石碑】

らきかけが大きかったといわれています。現在、橋の袂には宮本の言葉による「此乃橋全国同胞の協力によつてできました 感謝します 沖家室島民」と刻まれた碑があります。架橋に際してお金を出してくれた国民、すなわち納税者に感謝した碑文は全国的にみても極めて珍しいものです。私にはこの碑が、「四海皆同胞」や「相互扶助」の精神による民衆の営みをひたむきに肯定し、叙述し続けてきた宮本の思想を端的に示しているように思えてなりません。

橋が架かってから、柳井方面への買い物や診察等にも車で直接出られるようになりました。これにより利便性は向上しますが、同時に過疎化と高齢化が著しく進んでいきます。いま一度、島の歩んできた歴史を振り返り、島の現状と課題について真剣に考える必要があります。その際に、宮本の学問的実践とその過程で作成された諸資料は、誠に優れた思考材料を与えてくれると思います。

（板垣優河）